CESAプログラム
『湖東三山スマートインターチェンジ工事と大地のつくりネイチャーウォッチング』

名神高速道路湖東三山スマートインターチェンジ工事　作業所

日時　　平成 24 年7月10日　AM9:00～11:45

愛荘町立　愛知川小学校　6年生　　89名

愛荘町立　秦荘東小学校　6年生　　38名　　計127名

"美しい自然との共存"

高島鉱建　株式会社

発注者：中日本高速道路株式会社　名古屋支社

現場名：名神高速道路湖東三山スマートインターチェンジ工事

施工場所：滋賀県愛知郡愛荘町松尾寺　他

工期：平成23年　2月　4日～平成25年　1月　3日

工事概要：土工　36，300㎥

橋台　　2基

舗装工　6，400㎡

地下通路設置工　1箇所　7m

昇降階段　　3箇所

主催：高島鉱建　株式会社

共催：NPO法人CESA

後援：中日本高速道路株式会社　名古屋支社

協力：愛荘町教育委員会、NGO環境計画市民会議

今回の工事とCESAプログラムの趣旨

滋賀県には、日本の大動脈とも言える道路－名神高速道路、新名神高速道路、国道1号線、国道8号線など、たくさんの道路が通っています。この道路の活用は、日本の経済社会において、最重要項目として掲げられています。

この度、弊社の施工しております『名神高速道路湖東三山スマートインターチェンジ工事』は、すでに設置されています秦荘パーキングエリアを利用したETC専用のインターチェンジとなります。このスマートインターチェンジの設置は、地域住民の高速道路への利便性の向上、経済・観光などの様々な分野での活用など、快適な暮らしと経済効果が期待できます。

弊社と致しましては、工事の施工に対し、様々な環境への配慮を持って工事を進めていくことはもちろんのこと、工事を通じて、地域の方々のご理解とご協力を得るために、今回のCESA環境プログラムの開催を行いました。

今回のCESA環境プログラムは、土工事により、山肌（地層）が見えており、小学生6年生の教育カリキュラムと合致したため、地元の小学生を招き、実際の地層見学を通じて、一緒に勉強をさせていただきました。

工事を担当する私たちですが、普段良く目にする地層でも、いろんな違いがあり、地域の歴史や、環境変動など、一緒に勉強できる事は、とても楽しみにしています。

秦荘東小学校に愛知川小学校6年生が集合し、このCESA環境プログラムがスタート！！

高速道路の必要性、作業現場での環境対策について、中日本高速道路株式会社　生天目氏、続けて高島鉱建　株式会社　山田工事長よりお話がありました。

また、NPO法人CESA　今村環境マスターより、地層の構造や、仕組み、地層から見えてくる歴史などの勉強を行い、この後作業現場へ移動した際の基礎となる勉強を行いました。

『バスに乗り、いざ環境学習へ　LET'S　GO！！』

今回は、参加人数が多いので、4つの班に分かれて行動しました。A班は、地層の勉強、B班は、植物の勉強、C班は、建設機械の乗車体験、D班の道路の仕組みや、測量の勉強をしました。

A班は、地層の勉強のため高速道路に近接する橋台付近へ移動。安全のため、ヘルメットを着用し、上を見上げると、何層にもなっている地層を発見！！

でも、小学生の感想は，ミルクレープ(ケーキ)みたいだそうです。

続いてB班は、植物の勉強をしました。なんと泰荘東小学校の先生は、植物の専門の先生で、お箸として使える植物の茎や、トイレでの紙の代わりになる葉っぱなど、植物の歴史や生態以外に山での遭難時に役に立つことを教えてくださいました。

建設現場では、山を削る作業は多くあり、地層を見ることは、多くあります。また普段、見かける植物も、改めて説明を受けて見ることで新たな発見がありました。自然は、奥がふかいなあ。

『建設機械に実際に乗ってみよう』

C班は、アトラクション的な建設機械の乗車体験！！普段触れることのできない建設機械やよく町で見かける大型ダンプの運転席に座り、視界を確認。高いところから見るけど、車の周りで結構見えないところが多いことに気が付き、少し驚いていました。

とても気に入ってくれたのか、先生に写真を撮ってもらうようにおねだり。いい写真が取れたかな？

このような体験型の校外学習を通じて、通学路での交通安全や、学校周辺での建設現場での事故を予防したいと思います。

D班は、道路の仕組みや、測量の勉強では、道路の構造や、鉄筋コンクリートの鉄筋を見て、『太いな～』、『重たいな～』など様々な感想！！『生コンって何？』、『アスファルトって何？』など建設業に、興味を持ってくれたかな？？

よく道で見かける測量作業！
穴をのぞくといったい何が見えるのでしょう？
『あっ、ACT（パチンコ店）が見えた！！』など、肉眼では見えない、遠くの景色が良く見えました。
この機械は、目的物までの距離を測ったり、角度を測ったりする機械で、その使い方を聞いて、改めて感心していました。

『全員で集合して』

最後に、主催者を代表いたしまして、高島鉱建㈱桑原社長より、ご挨拶。
現在は、普段立ち入ることのできない建設現場で、今日は、地層、植物などの様々な勉強を一緒にしました。とても限られた時間であること、また大人数での環境学習で、ゆっくりと勉強ができたかどうかはわかりませんが、今日の体験は、教科書を見る勉強より、より記憶に残る勉強会になったことと思います。

将来、皆さんが自動車の運転免許を取り、このスマートインターを利用する際に、校外学習に行ったと思い出してくれるととてもうれしく思います。

『最後に』

今回は、弊社としても受け入れたことのない大人数で、準備段階では、うまくできるかな、梅雨時期だけど天気は、大丈夫かなと、不安ばかりでしたか、朝目覚めると、その不安を吹き飛ばすような晴天に恵まれ、大盛況の中、無事に終える事ができました。

現在の建設業は、特に土木を中心に、次世代の担い手が少ない業種となっており、土木系の大学を目指す人間が極端に減少しております。公共工事＝税金の無駄使いというレッテルが貼られ、公共投資額も減少の一途を辿り、現在では、ピーク時の半分にも満たない状況となっており、確かに活気のある産業ではないかもしれません。

しかし、人間が便利を求めて生きていく上で、この建設業は、なくてはならない業種であり、また、この技術を後世に伝えて残していかないといけない業種であることは、間違いございません。便利になりすぎている現在で、道があること、学校があることは、当たり前です。その道も、直したり、拡げたりすることで、その利便性が向上していること、逆に手を加えなければ快適性、利便性が維持されないということも忘れてはいけません。

このCESA環境プログラムは、環境の校外学習だけでなく、現在の建設業を実際に見ていただき、身体で感じてもらうことで建設業に対し、少しでも興味を持っていただくことも、合わせてプログラムに入れていきたいと思っております。